



TITLE:

八戸市立市民病院泌尿器科における過去9年間の入院患者に関する統計的観察

AUTHOR(S):

加藤, 義朋

CITATION:

加藤, 義朋. 八戸市立市民病院泌尿器科における過去9年間の入院患者に関する統計的観察. 泌尿器科紀要 1972, 18(8): 609-614

ISSUE DATE:

1972-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/121407>

RIGHT:

八戸市立市民病院泌尿器科における過去 9年間の入院患者に関する統計的観察

八戸市立市民病院泌尿器科

加 藤 義 朋

CLINICAL STATISTICS ON INPATIENTS AND OPERATIONS AT THE UROLOGICAL SECTION OF HACHINOHE CITIZEN'S HOSPITAL IN RECENT 9 YEARS FROM 1962 TO 1971

Yoshitomo KATō

From the Urological Section of Hachinohe Citizen's Hospital, Hachinohe, Japan

Statistical observations of inpatients and operations at our section in recent 9 years, 1962 to 1971, revealed the following results.

There were 1443 inpatients (male 876, female 567).

The classification of inpatients according to diseases showed that ureterolithiasis (144 cases) was most frequent, followed by renal tuberculosis (130 cases), pyelonephritis (113 cases), movable kidney (104 cases) and hypertrophy of the prostate (93 cases).

There were 799 operations performed; nephrectomy (145 cases), ureterolithotomy (100 cases), nephropexy (82 cases), prostatectomy (67 cases) and epididymectomy (55 cases).

は じ め に

八戸市立市民病院泌尿器科は、1962年10月に開設され10年目を迎えた。この機会に9年間における当科入院患者ならびに、その手術術式について、統計的観察をおこなったのでここに報告する。

入 院 患 者

1. 入院患者数 (Table 1)

1962年10月より1971年9月までの9年間の入院患者総数は1,443名で、年次別にみると年々増加の傾向を示している。入院患者総数1,443名中、男876名、女567名、男女比は1.6:1で男子が多い。年令別にみると、20代が289名(20.0%)と最も多く、ついで、30代が209名(14.5%)の順になっている。小児例は毎年比較的少ないのに反し、老人例のほうは増加が著しい。

2. 病類別分類 (Table 2)

病類別に分けると1,532例である。そのうち、非特

異性炎症が271例(17.7%)と最も多く、ついで結石症260例(17.0%)で、つぎにその他の上部尿路疾患と腫瘍でそれぞれ246例(16.0%)、242例(15.8%)とほぼ同率である。さらに結核182例(12.2%)とこれにつぎ、その他の下部尿路疾患106例(6.9%)の順である。

3. 疾患別分類

まず、腫瘍はTable 3に示すとおりである。すなわち、前立腺肥大症が93例(38.4%)と最も多く、ついで、膀胱腫瘍62例(25.6%)、前立腺癌26例(10.7%)、さらにカルンクラ、腎腫瘍、おのおの17例(7%)の順である。

つぎに、結石症をみるとTable 4に示すとおりである。すなわち、尿管結石が260例中144例(55.5%)と過半数を占め、ついで、腎結石62例(23.8%)、膀胱結石28例(10.8%)の順である。

ついで、結核をみるとTable 5に示すとおりである。すなわち、片腎結核が187例中108例(57.7%)と最も多く、ついで、片側副睾丸結核34例(18.2%)、両側腎結核22例(11.7%)の順である。

Table 1. 入院患者数

年 令 性 年次	0～10才		～20才		～30才		～40才		～50才		～60才		～70才		～80才		81才以上		計		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1962*	3		1		5	5	3	3	1	3	2	2	5		3	1			23	14	37
1963	7		13	9	32	14	19	23	12	10	9	5	11	3	7		2		112	64	176
1964	7		9	5	14	22	8	14	7	4	9	12	9	4	4	4			67	65	132
1965	8	1	9	4	22	9	12	14	7	7	7	7	9	2	4	1			78	45	123
1966	8	2	10	7	8	16	12	17	10	8	16	11	12	12	7	1			83	74	157
1967	1	1	10	10	18	12	20	14	15	15	14	15	7	4	11		1		97	71	168
1968	10	1	12	5	20	12	18	19	11	20	16	8	15	5	10	4	4		116	74	190
1969	7	1	7	5	21	12	17	13	14	6	21	8	18	8	5	2	1		111	55	166
1970	6		11	5	15	11	23	9	15	10	17	13	26	4	7	2			120	54	174
1971**	5	2	9	4	5	16	11	3	15	9	6	1	14	4	4	2			69	51	120
計	62	8	91	54	160	129	143	129	107	92	117	92	126	46	62	17	8		876	567	1,443
総 計	70		145		289		272		199		209		172		79		8		男女比 1.6 : 1		

*1962. 10～12 **1971. 1～9

Table 2. 病類別症例数

年 次		1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	計
病 類												
腫	瘍	8	25	19	10	28	24	34	30	43	21	242
結	石	5	27	13	31	32	26	42	30	27	27	260
結	核	14	35	20	16	24	14	18	20	20	6	187
非 特 異 性 炎	症	3	21	26	28	27	40	35	38	30	23	271
奇	形	3	5	6	6	6	8	6	12	8	8	68
尿	瘻			1	1		2	3	1			8
その他上部尿路疾患		3	48	36	22	22	26	21	24	25	19	246
その他下部尿路疾患		2	15	13	5	11	10	14	12	14	10	106
性 器 疾 患		1	8	5	12	5	12	11	4	3	1	62
外	傷		2			1	1	4	6	3	2	19
そ の 他		2	7	1	4	6	13	8	5	4	13	63
計		41	193	140	135	162	176	196	182	177	130	1,532

Table 3. 腫 瘍

年 次		1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	計
疾患名												
前 立 腺 肥 大 症		6	12	9	4	10	7	14	8	16	7	93
膀 胱 腫 瘍		1	2	1	2	6	7	4	11	19	9	62
前 立 腺 癌		1	5	2		4	3	8	2	1		26
尿 道 腫 瘍											1	1
ル ン ク			1	2		2	3	2	4	3		17
腎 腫 瘍			1	1	1	2	2	5	1	3	1	17
陰 茎 腫 瘍			1	1						1		3
睪 丸 腫 瘍			1			2	1		1		1	6
尿 路 乳 頭 腫							1				1	2
腎 盂 癌				1	2	1			1		1	6
褐 色 細 胞 腫			1									1
副 腎 過 形 成			1									1
泌 尿 器 系 転 移				2	1	1		1	2			7
計		8	25	19	10	28	24	34	30	43	21	242

Table 4. 結 石

部 位	年 次	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	計
尿 管		4	16	8	19	14	13	24	15	16	15	144
腎			2	2	9	13	7	10	8	4	7	62
膀 胱			4	2	2	4	1	4	5	5	1	28
腎 尿 管			3			1	3	1	1	1	2	12
前 立 腺					1		2	2		1	2	8
尿 道			1									1
尿 管 ・ 膀 胱			1									1
腎 ・ 膀 胱									1			1
膀 胱 ・ 前 立 腺								1				1
腎 ・ 尿 管 ・ 膀 胱		1		1								2
計		5	27	13	31	32	26	42	30	27	27	260

Table 5. 結 核

疾患名	年 次	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	計
片 腎 結 核		8	19	9	11	19	6	12	9	10	5	108
両 腎 結 核		3	5	3			4	3	2	2		22
残 腎 結 核		1	4				1	2	2	2		12
片 側 副 辜 丸 結 核		1	6	7	4	4	3		2	6	1	34
両 側 副 辜 丸 結 核		1	1			1		1	2			6
前 立 腺 結 核				1	1				3			5
計		14	35	20	16	24	14	18	20	20	6	187

Table 6. 非特異性炎症

疾患名	年 次	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	計
腎 盂 腎 炎			5	8	16	10	10	15	17	17	15	113
膀 胱 炎		1	4	6	2	7	7	5	2	1	1	36
副 辜 丸 炎		2	2		1	3	4	5	4	5	3	29
前 立 腺 炎			3	4	2	4	3	2	3	1	1	23
膿 腎 炎			4	3			2					9
辜 丸 炎					1		1					2
腎 周 囲 炎				2			1					3
包 皮 龜 頭 炎			2	2								4
急 性 腎 炎							2					2
慢 性 腎 炎			1	1	6	3	10	8	11	6	2	48
そ の 他									1		1	2
計		3	21	26	28	27	40	35	38	30	23	271

さらに、非特異性炎症をみると Table 6 に示すとおりである。すなわち、腎盂腎炎が271例中113例(41.7%)と最も多く、ついで、慢性腎炎48例(18.7%)、膀胱炎36例(13.3%)、副辜丸炎29例(10.7%)の順である。

奇形では、停留辜丸が68例中22例(32.4%)で最も多く、嚢胞腎14例、先天性水腎症 8 例、腎のう腫6

例、発育不全腎6例など、これにつづいている。

尿瘻では、膀胱陰嚢5例、尿管陰嚢3例で9年間を通してわずか8例である。

その他の上部尿路疾患は、246例中腎下垂104例(41.5%)が最も多く、ついで、特発性腎出血30例(12.2%)、腎不全29例(11.8%)、水腎症22例(9.0%)の順である。その他の下部尿路疾患では、神経因性膀

胱が最も多く過半数を占め、106例中52例（49%）、尿道狭窄23例（21.6%）、包茎20例（18.9%）の順である。

性器疾患では、陰嚢水腫が62例中25例（40.4%）で最も多く、ついで、精索静脈瘤17例（27.4%）、精索水腫5例（8.1%）の順である。

外傷では、腎外傷が19例中13例（68.5%）と大多数を占めている。

その他の疾患では、63例中検査のため入院した47例を除く16例中10例が、そけいヘルニアである。

手術症例

過去9年間に入院患者1,443名のうち、762名に対し、799回の手術を施行している。手術患者762名のうち、男500名、女262名、男女比1.9:1と圧倒的に男子が多い。

まず手術部位をみると Table 7 に示すとおりである。すなわち、腎の手術が299例（37.4%）と最も多く、ついで、陰嚢内、外陰部の手術144例（18.0%）、尿管の手術123例（15.4%）、膀胱、前立腺および尿道、陰茎の手術の順である。

腎の手術は Table 8 のように、299例中、腎摘除術が145例（48.5%）と最も多く、腎固定術82例（27.4%）とこれにつづいている。しかし腎固定術は1963年をピークとし、急減している。

尿管の手術は123例中、尿管切石術が100例（81.3%）と大多数を占め、ついで、尿管皮膚瘻13例（10.6%）となっている（Table 9）。

膀胱の手術をみると Table 10 に示すとおりである。

すなわち、膀胱切石術が88例中16例（18.2%）、腫瘍単純切除術15例（17.0%）と最も多く、ついで、膀

Table 7. 手術部位別症例数

年 次		1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	計
手術部位												
腎		15	63	42	25	38	35	32	20	20	9	299
尿管		4	13	7	18	12	14	20	12	16	7	123
膀胱		2	12	7	7	11	10	13	10	9	7	88
前立腺		2	14	9	4	11	7	11	5	8	5	76
尿道・陰茎		2	7	6	1	7	6	4	5	7	8	53
陰嚢内・外陰部		8	17	14	16	19	21	20	12	13	4	144
その他の			3	2		2	4	1		3	1	16
計		33	129	87	71	100	97	101	64	76	41	799

Table 8. 腎の手術

年 次		1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	計
手術												
腎摘除術		8	25	16	10	19	14	18	14	15	6	145
尿管摘除術						1	1				1	3
腎切石術		1	2	1	1	3	6	2	1		1	18
腎盂切石術					2	2						4
腎内腎盂切石術											1	1
部分的腎摘除術			2	1	1		2	3	1			10
腎瘻術		3	2		2		3	1		2		13
腎固定術		1	27	21	6	11	6	5	4	1		82
腎盂尿管形成術		1					1					2
腎カルブネル切開							1					1
う胞腎縮小術		1				2						3
空洞切開			1		1							2
橋部離断術				1	1			1				3
腎摘後瘻孔切除術			3	1	1			2		2		9
その他の			1	1			1					3
計		15	63	42	25	38	35	32	20	20	9	299

Table 9. 尿管の手術

術式	年次	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	計
尿管切石術		3	12	6	12	12	10	14	11	13	7	100
尿管瘻（除膀胱全摘）		1	1	1	2		2	2	1	3		13
尿管膀胱吻合					1			2				3
逆行防止					1		2					3
新吻合					2							4
尿管口切開					2			2				4
計		4	13	7	18	12	14	20	12	16	7	123

Table 10. 膀胱の手術

手術	年次	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	計
膀胱部分切除術 （膀胱尿管吻合）		1					2				1	4
尿管皮膚瘻術		1		1	2							4
膀胱全摘除術												
尿管皮膚瘻術				1	2				1	2		6
回腸導管法											1	1
腫瘍単純切除術			2			3	1	2	4	2	1	15
頸部切、吊上形成術			1	2		1						4
膀胱（腔・腸）瘻閉鎖				1			1					2
膀胱切石術			4	2	1	2		5	2			16
膀胱瘻術			1		1		1	4		1	1	9
回腸膀胱吻合術			4									4
膀胱碎石術						2	1		2	2	1	8
TURBH					1	1	1	1	1		1	6
TURET						1	2	1		2	1	7
その他						1	1					2
計		2	12	7	7	11	10	13	10	9	7	88

Table 11. 前立腺の手術

術式	年次	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	計
前立腺（後）恥上		1	12	9	4	9	7	10	4	6	5	67
全摘除術		1	2					1		1		5
その他						2						2
TURP									1	1		2
計		2	14	9	4	11	7	11	5	8	5	76

膀胱瘻術，膀胱碎石術とつづき，1966年の後半から TURB が施行されるようになった。

前立腺の手術は76例中，前立腺摘除術67例（88.0%）と大多数を占め，前立腺全摘除術，TURP の順である（Table 11）。

尿道・陰茎部の手術は53例中，包茎手術17例（32.1%），尿道カルンクラ切除術15例（28.4%）と最も多く，ついで，尿道狭窄手術13例（24.5%）の順であ

る。

陰嚢内・外陰部の手術は144例中，副睾丸摘除術55例（38.1%）と最も多く，ついで，陰嚢水腫根治手術28例（19.4%），睾丸摘除術25例（17.4%），睾丸固定術19例（13.2%）の順である。

その他の手術は，そけいヘルニア根治手術が8例（50%）と最も多く，ついで，試験開腹4例（25%）である。

ま と め

八戸市立市民病院泌尿器科における過去9年間(1962.10~1971.9)の入院患者の疾患およびその手術術式について報告した(Table 12).

I) 入院患者総数は1,443名(男876名, 女567名)であり, 年齢別にみると20代が289名, 30代が272名, 50代が209名の順で, 小児例が少なく, 老人例が多い.

II) 主要疾患をみると, 1) 尿管結石症144例, 2) 腎結核130例, 3) 腎盂腎炎113例, 4) 腎下垂104例, 5) 前立腺肥大症93例であった.

III) 主要手術術式をみると, 1) 腎摘除術145例, 2) 尿管切石術100例, 3) 腎固定術82例, 4) 前立腺摘除術67例, 5) 副睾丸摘除術55例であった.

(本論文の要旨は, 日本泌尿器科学会第36回東部連合地方会に発表した.

最後に, この間, 当科に在籍し, 直接診療した入沢

Table 12. まとめ

八戸市立市民病院泌尿器科入院患者

(1962.10~1971.9)

I) 1,443名(男876名, 女567名)

- 1) 20代 289名 20.0%
- 2) 30代 272名 18.7%
- 3) 50代 209名 14.5%

II) 主 要 疾 患

- 1) 尿 管 結 石 144例 9.4%
- 2) 腎 結 核 130例 8.5%
- 3) 腎 盂 腎 炎 113例 7.4%
- 4) 腎 下 垂 104例 6.8%
- 5) 前立腺肥大症 93例 6.1%

III) 主 要 手 術

- 1) 腎 摘 除 術 145例 18.2%
- 2) 尿 管 切 石 術 100例 12.5%
- 3) 腎 固 定 術 82例 10.1%
- 4) 前立腺摘除術 67例 8.4%
- 5) 副睾丸摘除術 55例 6.9%

俊氏博士, 伊藤 亨博士, 相沢正俊博士および五十嵐邦夫博士らの努力の集積であることを明記し, 深謝する.)

(1972年3月6日受付)